

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472700277		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム そよかぜ		
所在地 (電話番号)	黒川郡富谷町富谷字桜田1番地11 (電 話) 022-348-1631		
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 20 年 6 月 17 日		

【情報提供票より】(平成 20 年 6 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.21	

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	85.6 歳	最低 81 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(前)医療法人社団益和会 富谷医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

富谷町北部の高台にある総合福祉エリア「どうみやの杜」に、包括支援センターや社会福祉協議会、同一法人の特別養護老人ホームやデイサービス、ケアハウス等に隣接のグループホームは、特養と密接に連携している。入居者も地域の一員として参加し、地域の行事や交通安全街頭指導、地域の人々との交流を積極的に行っている。高齢化が進み、活動力も低下してる現状であるが、余暇時間の工夫など努力されていた。主治医との連携もよく、入居者等のニーズに添えるように、「ホームで対応が可能な限りケアにあたる」方針である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議の開催が平日で、家族の参加が得られないことが課題であった。今回は、土日のイベント時に開催し、家族の参加が得られ課題は改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義を話し合い、改善点を明らかにしサービスの質の向上を図るもので、ホームの優劣を表すものでないという事を周知した。自己評価表を管理者が文章化し、職員が意見を出し合い、管理者がまとめて作成した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月1回開催し、委員には入居者や家族、町の職員や町内会長等で構成されている。前回の課題の解決に資するように、今回は運営推進会議を土日のイベントや夏祭り等に合わせ開催し、家族の出席や協力を得ることができた。ホームの年間行事や地域の行事への参加、「どうみやの杜」の行事への参加や協力などの話し合いがなされた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「苦情処理の仕組み」を分かりやすく図式化し、第三者委員等も重要事項説明書に明記されている。家族等の苦情はなく、入居者の嗜好品や衣替えなどの要望が多かった。入院などの相談等もなされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>春秋の交通安全街頭指導や地域の避難訓練、地域の夏祭りへ等への参加、併設の特養の「おもちゃ美術館」での子供たちとの交流や、ボランティアによる「喫茶コーナー」、書道等の趣味の会への参加、地域の商店への買物など地域の一員として、地域の人々との交流を積極的に行っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「将来的に自分たちも ここで生活したいと 思えるような そよかぜに していきましょう。」というホーム独自の理念は、開設以来、総合福祉エリアとうみやの杜の理念に基づいている。グループホームは、地域密着型サービスとして位置付けられ、その使命を理念に加味されていない。	○	理念はホームが目指すサービスのあり方を示すもので、平成18年地域密着型サービスとして位置付けられ、その意図を理解され、その使命をうたった行動規範となるような理念にしていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のケア会議において、理念を意識し個別ケアの評価を行い、職員の共有化を図っている。入居者との懇談会で食べたいものや旅行、手洗いなど入居者主体の具体的なケアに心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年2回の入居者と共に小学生の交通安全街頭指導や防災訓練、地域の夏祭り、敬老会など積極的に参加している。ボランティアによる併設の特養の喫茶コーナーやおもちゃ美術館等の利用、書道等の趣味の会への参加など、地域の人々との交流に積極的に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価の試案を作り、職員が意見を出し合い、管理者が修正し作成した。外部評価はホームの優劣を表すことでなく、サービスの質の向上や改善に役立てることにあることを話し合い共有し、日々のケアに役立てている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や家族、町の職員や町内会長等が意見を交換し、交通安全街頭指導等年間行事への協力など実務的な話し合いが行われた。家族の参加が容易になるように、土日やイベント開催時に開き、前回の外部評価の課題を改善している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	総合福祉エリアとうみやの杜に社会福祉協議会、地域包括センター等、近くに町役場があり、入居者の状態の変化に対する相談など、即対応して貰っている。常に声がけもしてもらえるなど、綿密に連携は取れ日々のケアに活かされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「生活の記録」のコピーや写真等を送付し、金銭出納については家族等の面会時に説明しサインをもらっている。入居者は地域の人々が多く、月に一度は面会に来ており、状況の変化時には電話で状況を家族等に知らせている。また、ホーム便りの活用等も検討していただきたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は結成されていないが、家族とは何でも話してもらえる体制をつくっており、相談しやすい雰囲気であることが、家族アンケートからもうかがえる。相談苦情の窓口は第三者委員や町、県、国保など重要事項説明書に明示されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は入居者の心理的な影響を考慮し、事前に家族に説明。引継ぎには「24時間シート」を作り、個々のケアの内容を説明し心理的なダメージを少なくするように配慮している。前任者に会いたい時には、話し合える機会を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間計画により、内部研修や外部研修に参加している。職員の質の格差をなくすよう、非常勤の職員の外部研修も検討している。介護福祉士や介護支援専門委員等の資格取得の勉強会等バックアップ体制もあり、職員も活き活きとして明るく定着している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月法人のすずらん、なのはな、そよかぜの3グループホームの定例会を開催、研修の場をもって日常のケアの質の向上に役立っている。今後は3ホームの交換研修に向けて検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前よりグループホームに来てもらい、入居者や職員等とお茶の時間を過してもらい馴染みの関係を作っている。新規入居者は1～2週間でホームの生活に馴染むようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	犬の散歩や米とぎなど食事の準備や後片付け、買物など入居者の得意分野で経験や知恵を活かして、持てる力を発揮してもらっている。郷土料理や畑づくりなど入居者に教えてもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と毎月懇談会を開き、お茶を飲みながら寛いだ雰囲気傾聴に心がけ、食べたいものや旅行に行きたい所など本音を聞くようにして、できる限り希望に添えるようにしている。できない時は理由を説明し、時間や日を改め叶えられるようきめ細かな支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や、家族の要望を聞き、リハビリの必要あれば医師や理学療法士、臨床心理士等の診断内容を話し合い介護計画を作成している。家族等には介護計画等のコピーも渡し説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケア会議で入居者の状況を評価し、状況の変化に応じて本人や家族、嘱託医、理学療法士や臨床心理士等と話し合い介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	総合福祉エリアのとうみやの杜には同一法人の特別養護老人ホームやデイサービス、ケアハウス等が併設され、ホームとしては多機能性を活かした取り組みは考えていない。かかりつけ医等への通院や外出などは、入居者の体調に合わせ柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師に緊急時にも対応してもらっている。特養の医師との相談も可能で、かかりつけ医師よりも医療支援を受けている。本人の状況を家族に連絡し、必要があれば直接家族と医師とで話し合いを行う場を設けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ホームで人生を全うしたい」という入居者や家族の希望に添えるよう、職員や主治医等と話し合いを持ち、「ホームで対応が可能な限りケアにあたる」という方針である。終末期のケアには家族の協力や未経験な職員にまだ不安があり、ホームとしても躊躇せざるを得ない状況である。	○	入居者や家族がホームで生涯を送りたいと希望した場合、できるだけニーズに応えられるよう福祉法人として検討しているので、ホームを終の棲家となれるようにしてほしい。「看取りと重度化に関する指針」を明確にして職員の研修や関係者等との話し合いなどをして、納得のいく看取りができるようにして検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いについては文書化され、個人情報などは金庫や事務室の書棚に保管している。トイレや入浴等の誘導には、入居者にあつた声がけを心がけ穏やかに対応されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が重度化してきた中で、本人の意志や思いをできるだけ汲み取るよう努めている。一人ひとりの生活のリズムを尊重し、その人のペースで、その人らしい生活が送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物や米とぎ、野菜切りや盛り付け、後片付けなど、入居者と職員が一緒に行い、会話が弾み和やかな雰囲気の中で職員と一緒に食事をしてきた。入居者の希望によりきざみ食を行う場合には、盛り付けた料理を見せ刻むようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の顔色や血圧など体調を見ながら、希望する時間に入浴することができる。入浴を拒む人には、さりげない誘導で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、犬の世話など個別な対応に心がけ、ドライブしたりとメリハリのある生活を心がけている。畑作りや散歩、買物など外出は日常的に行い、個々の役割や趣味等を楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設の特養のボランティアによる週3回の喫茶コーナーでコーヒーを楽しむ人や通院の際行きつけの美容院へ寄りつたり、墓参りなど、日常的に外出は自由にできる。出かけたくない人にはさりげなく声がけし、出かける機会を少しでも作るよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の外出傾向をつかみ、職員は共有し見守りで対応して、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。夜間は防犯上玄関等には施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアル等も準備され、併設の特養と合同で年2回、入居者も参加し避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行われ、非常食等も備蓄している。消火設備等も定期的に専門業者に依頼し点検をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特養の管理栄養士による献立表に基づいたバランスの良い食事である。入居者の嗜好に合わせ梅や紫蘇巻き等代替で対応することもある。食事量や水分摂取量等を体重チェック表で把握している。月一回、測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下のソファで入居者がくつろいだり、休んだりと居心地よく過している。花や植物、絵等を飾ったり、入居者の作品である部屋の表札や創作紙人形、押し花等で家庭的な暖かみを醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力により、仏壇、使い慣れた机やダンスなど入居者の思い出の家具等が持ち込まれ、その人らしく過ごせる居室になっている。仏壇に毎朝ご飯やお茶等を供え、お参りしている人もいる。		